

2013年度 センター試験 倫理、政治・経済 (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：39 問			
難易度の変化（対昨年）	難化	やや難化	変化なし	やや易化	易化
問題の分量（対昨年）	増加	変化なし	減少		
出題分野の変化	あり	なし			
出題形式の変化	あり	なし			
新傾向の問題	あり	なし			

総評

「倫理、政治・経済」での出題が再開されて2年目であるが、昨年と異なり倫理分野でオリジナル設問が2題出題された。それ以外は、昨年同様に「倫理」および「政治・経済」との共通設問で構成されており、出題形式に大きな変化はなかった。出題分野に関しては、「倫理」分野は19問、「政治・経済」分野は20問で昨年と同様であった。また、「政治」分野と「経済」分野は各10問であり、昨年と同じであった。各分野から満遍なく出題された点も同様である。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	情報技術に関する対話文を素材に、現代社会の諸問題を総合的に問う。	14点	家族・自我・資料分析・アーレント・ヴィトゲンシュタインの順に出題。細かな知識を前提とする設問があったため、難しく感じられたかもしれない。なお、リード文は「倫理」の第1問と同じである。
第2問	「理」をキーワードにした日本思想の展開を示すリード文で、東洋思想を総合的に問う。	18点	古事記・ブツダ・末法・儒学・三浦梅園などの日本の思想家の順に出題。貝原益軒や三浦梅園などは通常は詳細に説明されないため難しい印象がある。なお、リード文は「倫理」の第3問と同じである。
第3問	「批判」をテーマにしたリード文で、西洋近現代思想を総合的に問う。	18点	パルメニデスなどの源流思想・世界の宗教・ベーコン・デイドロなどの近代思想・カント・ハイデッガー・本文内容把握の順に出題。細かな知識を前提とする設問があったため、若干難しく感じられたかもしれない。なお、リード文は「倫理」の第4問と同じである。
第4問	現代の国際社会が抱える諸問題をまとめたリード文で、政治・経済を総合的に問う。	14点	1970年代以降の国際経済・1980年代以降の日本の行政改革・各国の政治体制・資料読み取り・租税と国債・安全保障の順に出題。基本事項をしっかり押さえておけば確実に得点可能。なお、リード文は「倫理、政治・経済」のオリジナルである。
第5問	アラブの春を糸口にした会話文を素材に、政治分野を総合的に問う。	18点	ルソー・一票の価値の格差に関する資料読み取り・情報公開制度・地図で示す国際紛争・参政権の保障・国会の権限・基本的人権の順に出題。資料問題は単なる読み取りではなく、知識を前提としたもの。地図問題は苦手な受験生も多かったことだろう。なお、リード文および各設問は「政治・経済」の第3問と同じである。
第6問	市場をテーマとしたリード文で、経済分野を総合的に問う。	18点	貨幣の機能・市場と企業・消費者の四つの権利・市場機構のグラフ・世界経済史・日本経済総合の順に出題。なお、リード文および各設問は「政治・経済」の第4問と共通である。